



Title	インターンシップやアルバイトを活用した就職と能力形成や就職満足度との関連に関する実証的研究：大学の選抜性（入学難易度）に着目して
Author(s)	亀野, 淳
Citation	Pages: 1-26
Issue Date	2019-09-07
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/75423">http://hdl.handle.net/2115/75423</a>
Rights(URL)	<a href="https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/">https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/</a>
Type	conference presentation
Note	日本キャリアデザイン学会第16回研究大会. 2019年9月6日(金)-9月8日(日). 学習院大学, 東京都豊島区
File Information	CDIJ16_kameno(HUSCAP).pdf



[Instructions for use](#)

インターンシップやアルバイトを活用した就職と  
能力形成や就職満足度との関連に関する実証的研究

－大学の選抜性（入学難易度）に着目して－

2019.09.07  
日本キャリアデザイン学会@学習院大学  
北海道大学 亀野 淳  
jkameno@high.hokudai.ac.jp

# 0. 本日の発表構成

1. 本研究の背景
2. 先行研究
3. 本報告で明らかにしたいこと
4. 研究方法
5. 分析結果
6. 結果の要約と考察
7. 今後の課題

# 1. 本研究の背景

- 若年者の就職・雇用問題

学生の志向が大企業に集中し、企業も学生の能力を十分に把握できないなど双方の情報不足・ミスマッチが存在

- 大卒者の採用に当たっては、意識、能力等のミスマッチなどの構造的な問題も顕在化

→就職・採用活動における学生・企業双方の情報の非対称性

→双方のミスマッチ

- 多くの大学でキャリア教育の一環としてインターンシップを実施し、大学生の多くが様々なインターンシップに参加。企業も採用のためにインターンシップを実施しているが、その効果は？

- 大学生の多くがアルバイトを行っており、金銭目的とはいえ貴重な就業経験。これが就職に与える効果は？

## 2. 先行研究

- 選抜研究 (Selection Research)

企業が様々な方法を用いて就職希望者（学生）の能力を把握し、選抜をしようとしている。

Ryan&Tippins(2004)では、面接やアセスメントテストよりも**実際の仕事状況に近い形を用いた選抜方法**の方が将来の業績の予測力が高いことを明らかにしている（服部（2007））。

本来であれば、インターンシップやアルバイトは**実際の仕事状況に近い形**であるから就職に有利なはず

- インターンシップによる就職の効果

- 育成仮説とマッチング効率性仮説（佐藤・梅崎(2015)）

- ①育成仮説：「インターン経験自体が学生の成熟度や社会に対する知識を深め、就職活動時にそれらが評価される」

- 真鍋(2010)：社会人基礎力の向上

- 古田(2010)：入社後のキャリア適応力の向上 など

- ②マッチング効率性仮説：「就職活動と採用活動への直接的な支援」

- Acemoglu and Pischke(1999)：「職場でインターンシップなどの訓練生を受け入れるメリットとして訓練生の情報上の優位性を利用できる」

- 堀田(2007) など

- ③インターンシップと就職の関係を直接分析したもの

- 佐藤・梅崎(2015)：「インターン経験には就職活動結果を向上させる効果はなく、もともと成績等が良く、就職活動に対して高い意欲を持つ大学生ほどインターンシップに参加しているという自己選抜（セルフ・セレクション）の影響の可能性がある」

- アルバイトによる効果

- ①学業などへの支障など否定的な側面を指摘するもの  
木戸口(2013)、渡辺(2015)など

- ②肯定的な影響

- ・ キャリア意識に関する影響を分析したもの

- 杉山(2007,2009)、関口(2010)など

- ・ ジェネリックスキルの向上に関する影響を分析したもの  
見館(2007)、石山(2017)など

- ・ アルバイトと就職活動の関連を分析したもの  
平尾・梅崎・田澤(2018)など

「特に非難関校においてアルバイト経験が就職活動の結果に対して影響を与えていることなど、大学の選抜性（入学難易度）による分析を実施」

- 大学の選抜性（入学難易度）と就職の関連

大学の選抜性（入学難易度）が高い大学の学生ほど就職が有利

その理由に関して

- ・ 訓練可能性説、人的資本論、技術的機能主義、シグナリング理論、制度論的アプローチ、葛藤理論など



### 3. 本報告で明らかにしたいこと

- インターンシップやアルバイトと就職の成果との関連
  - ① インターンシップやアルバイトは就職の成果に対して効果はあるか
  - ② その効果は、大学の選抜性（入学難易度）により異なるか
  - ③ その効果自体も、そもそも大学生活に積極的な学生がインターンシップやアルバイトに参加しているからであり、インターンシップやアルバイトの効果は低いのではないかと（自己選抜の影響）

## 4. 研究方法

- 発表者が実施した「インターンシップを活用した新たな就職・採用システムの構築に向けた実証的研究」におけるアンケート調査
- 就職が内定した大学4年生を対象者として、2018年1月に株式会社クロス・マーケティングを通じてインターネット上の質問紙により955名の回答

回答者の内訳（表0-1～0-3）

- ✓ 文部科学省「学校基本調査」の就職者（正規の職員等）の割合と比較すると、本回答の方が女性、人文科学、南関東の回答割合がやや高い。
- ✓ 性別、地域ブロック（10分類）、学部（11分類）の割合をベースにウェイトバックした回答をもとに分析

# 回答者の内訳

表0-1 回答属性（性別）

	学校基本調査	本調査
男性	50.7	34.5
女性	49.3	65.5

表0-2 回答属性（学部別）

	学校基本調査	本調査
人文科学	15.5	23.4
社会科学	37.9	30.4
理学	2.1	6.7
工学	12.2	8.8
農学	2.8	3.4
保健	9.8	6.8
商船	0.0	0.3
家政	3.5	3.9
教育	7.5	6.5
芸術	2.0	2.4
その他	6.6	7.6

表0-3 回答属性（大学所在地別）

	学校基本調査	本調査
北海道	3.5	3.9
東北	5.4	4.5
南関東	36.3	42.2
北関東・甲信	5.6	3.5
北陸	4.5	3.7
東海	8.7	9.0
近畿	19.3	19.2
中国	5.6	4.6
四国	2.3	2.1
九州	8.8	7.4

- ・ インターンシップ経験者：50.8%  
（リクルート就職みらい研究所(2018)『就職白書2018』：55.2%）
- ・ アルバイト経験者：89.2%  
（独立行政法人日本学生支援機構(2018)『平成28年度学生生活調査結果』：83.6% 10

# 大学の選抜性（入学難易度）の設定

- 国公立1：北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、九州、東京工業、一橋、筑波、神戸、横浜国立、広島
- 国公立2：国公立1を除く国公立大学
- 私立1：早稲田、慶應、上智、明治、法政、立教、青学、中央、学習院、国際基督教、津田塾、東京理科、南山、関西学院大学、関西、同志社、立命館、西南学院
- 私立2：私立1以外の私立大学
- 難関校：国公立1、国公立2、私立1
- 非難関校：私立2

表0-4 大学の選抜性（入学難易度）

	国公立1	国公立2	私立1	私立2	難関校	非難関校	合計
度数	70	239	152	485	461	485	946
%	7.4	25.2	16.1	51.3	48.7	51.3	100

## 5. 分析結果

### (1) 就職の成果に関する指標の設定と難易度との関連

- ① 就職予定先企業の従業員規模
- ② 就職予定先企業の満足度（5段階）
- ③ 就職活動の自己評価（100点満点）

表1 就職予定先企業の従業員規模（大学難易度別）

	計	国公立1	国公立2	私立1	私立2	難関校	非難関校
99人以下	13.2%	7.1%	12.6%	7.2%	16.3%	10.2%	16.3%
100～299人	17.4%	14.3%	21.8%	12.5%	17.3%	17.6%	17.3%
300～999人	17.2%	17.1%	19.7%	20.4%	15.0%	19.5%	15.0%
1,000～4,999	22.0%	20.0%	21.0%	21.7%	22.8%	21.0%	22.8%
5,000人以上	14.9%	28.6%	8.8%	28.3%	11.7%	18.4%	11.7%
わからない	15.2%	12.9%	16.0%	9.9%	16.9%	13.2%	16.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表2 就職予定先企業満足度、就活自己評価（大学難易度別）

	計	国公立1	国公立2	私立1	私立2	難関校	非難関校
就職予定先企業満足度	3.53	3.50	3.64	3.46	3.50	3.56	3.50
就活自己評価	66.8	67.5	69.6	67.8	64.9	68.7	64.9

## (2) 大学難易度によるインターンシップやアルバイトの経験の状況

表3 インターンシップ、アルバイトの経験状況（大学難易度別）

	計	国公立1	国公立2	私立1	私立2	難関校	非難関校
インターンシップ参加あり	50.5%	45.7%	50.2%	61.2%	48.0%	53.4%	48.0%
アルバイト経験あり	89.3%	88.6%	89.5%	91.4%	88.7%	90.0%	88.7%
6日以上のインターンシップ参加あり	18.8%	18.8%	12.5%	18.1%	22.3%	15.4%	22.3%
10日以上のインターンシップ参加あり	14.8%	15.6%	11.6%	14.9%	16.3%	13.4%	16.3%
インターンシップ熱心	29.2%	31.4%	22.7%	38.8%	29.0%	29.3%	29.0%
アルバイト熱心	69.3%	61.4%	73.2%	60.1%	71.3%	67.0%	71.3%

（注）インターンシップ及ぶアルバイトの「熱心」とはこれらについての積極性を4段階で回答してもらい、「積極的であった」「やや積極的であった」と回答した学生の合計

### (3) インターンシップ経験と就職成果指標との関係

表4 インターンシップ、アルバイトの熱心度と就職成果との関係

	インターンシップ熱心度		アルバイト熱心度	
	熱心	不熱心	熱心	不熱心
1,000人以上企業への就職割合	42.4%	34.4%	36.1%	38.0%
内定先満足度	3.52	3.53	3.62	3.32 ***
就活点数	69.9	65.3 **	67.8	64.0 *

(注) \*:  $p < 0.05$ , \*\*:  $p < 0.01$ , \*\*\*:  $p < 0.001$

## (4) インターンシップ、アルバイトと就職の成果の関係における大学難易度別による分析

### 分析方法

#### ① 就職成果指標

- ・ 1,000人以上企業への就職割合
- ・ 内定先満足度（5段階）平均値
- ・ 就活自己評価点数（100点満点）平均値

を

インターンシップやアルバイトの熱心度（熱心・不熱心）  
& 大学難易度（難関校・非難関校）



## ②重回帰分析

従属変数：就職成果指標

- ・ 1,000人以上企業への就職（0 or 1のダミー変数）
- ・ 就活自己評価点数（100点満点）

独立変数

- ・ 大学難易度（難関校 or 非難関校）
- ・ インターンシップ熱心度
- ・ アルバイト熱心度
- ・ 大学生生活熱心度（勉強（授業）、勉強（授業以外）、部活動、サークル活動、ボランティア、留学、海外旅行、国内旅行、資格取得、読書、芸術活動、友人関係）

統制変数：性、大学所在地、学部

①就職成果指標とインターンシップ等&難易度の関係  
 ○1,000人以上企業への就職との関係

図1 難易度・インターンシップ熱心度  
 と1000人以上企業への就職割合の関係

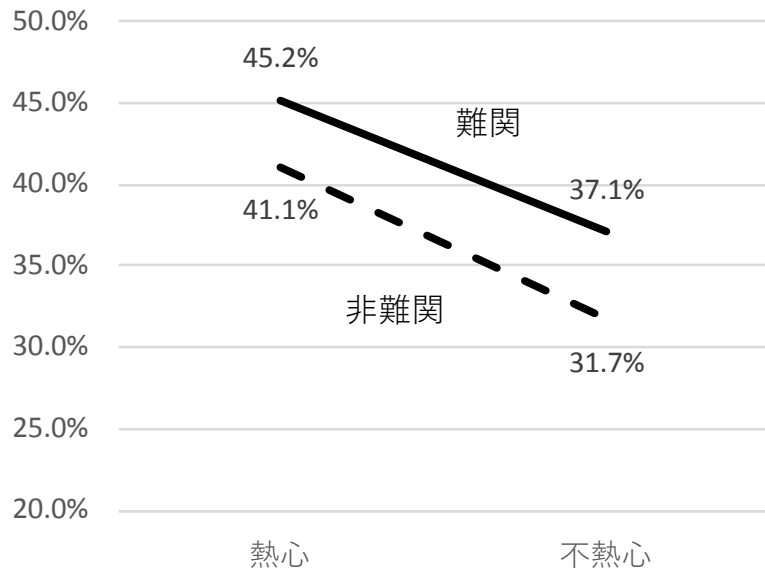
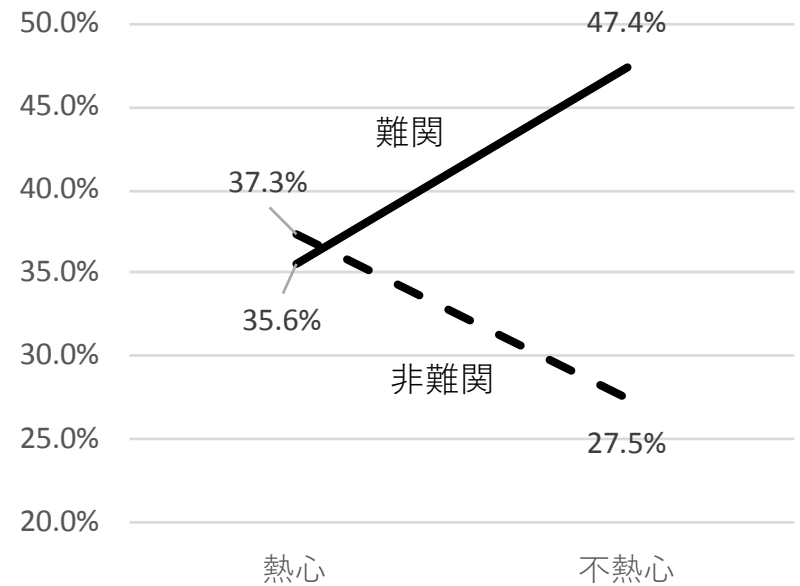
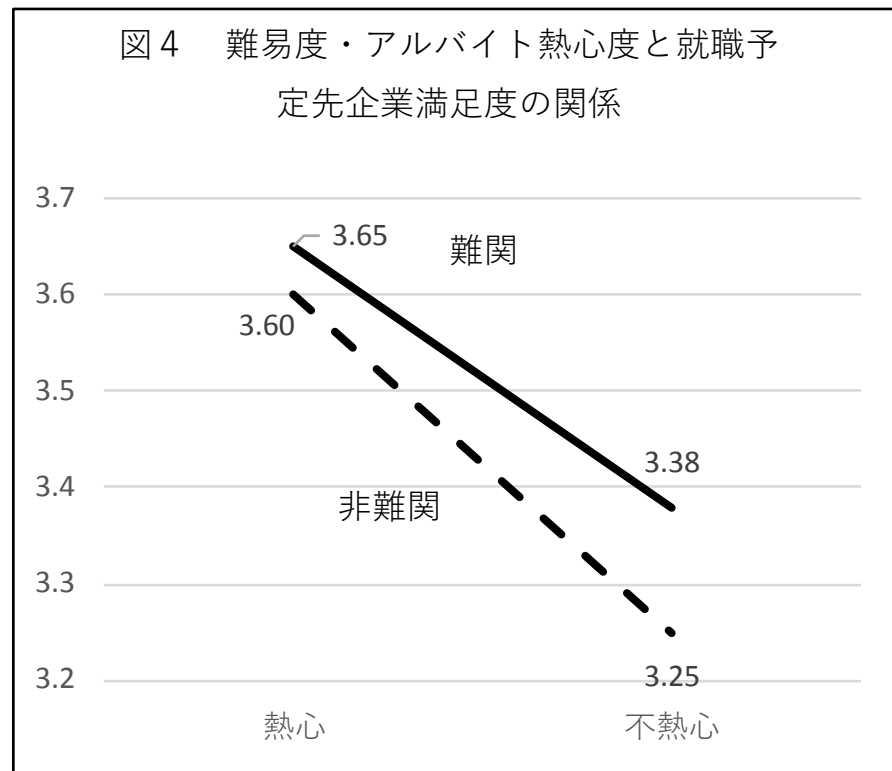
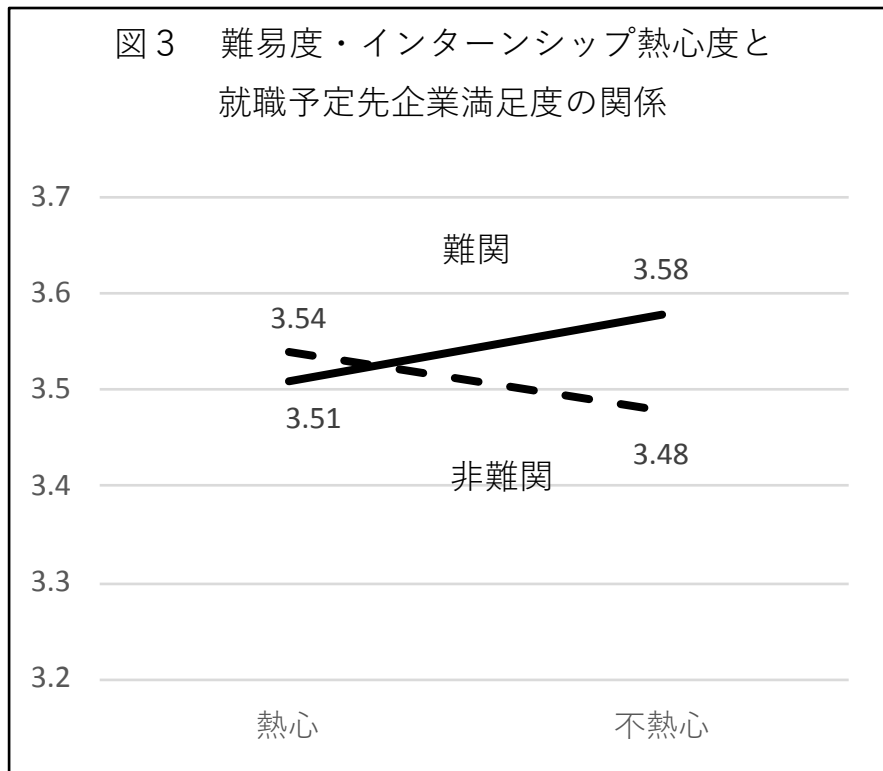


図2 難易度・アルバイト熱心度と1000  
 人以上企業への就職割合の関係



# ①就職成果指標とインターンシップ等 & 難易度の関係

## ○内定先満足度との関係



①就職成果指標とインターンシップ等&難易度の関係  
○就活自己評価点数との関係

図5 難易度・インターンシップ熱心度と  
就活得点の関係

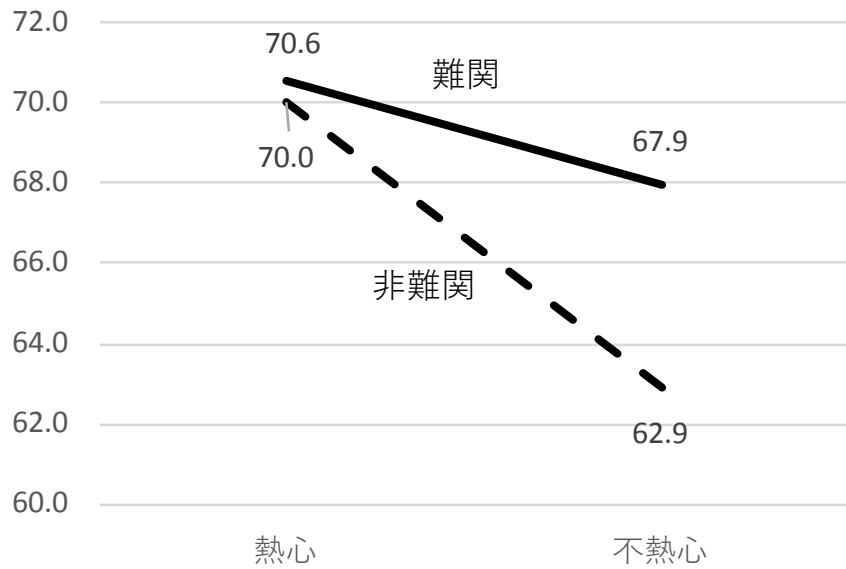
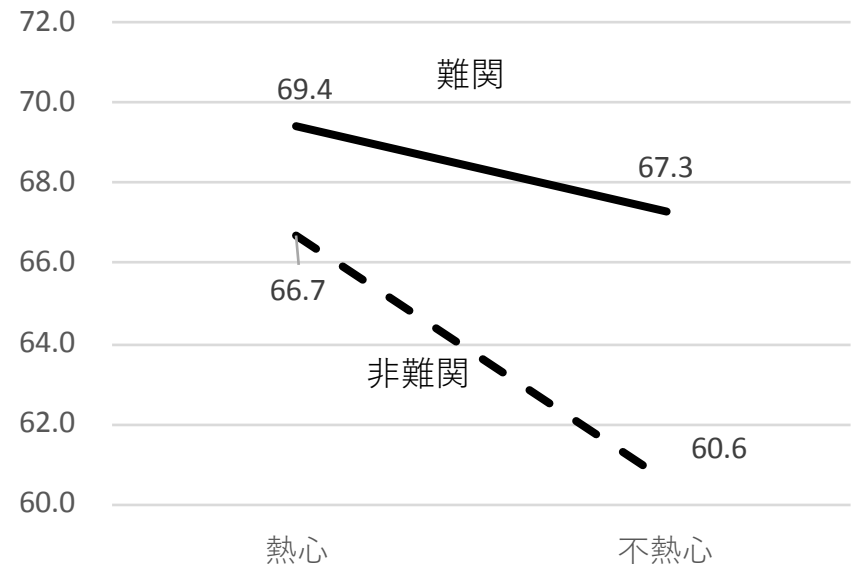


図6 難易度・アルバイト熱心度と就活得  
点の関係



## ②重回帰分析の結果

(従属変数：1,000人以上企業への就職内定の有無)

表5 就職成果とインターンシップ、アルバイトや大学生活との関連①  
(ロジスティック回帰分析結果)

従属変数		1,000人以上企業への就職内定						
		(全学生)		(難関校のみ)		(非難関校のみ)		
独立変数								
性別ダミー (基準：男)		0.118	0.109	0.166	0.137	0.193	0.118	0.111
所在地ダミー (基準：地方圏)	南関東	0.561 **	0.538 **	0.496 **	0.568 *	0.445 †	0.458 †	0.482 †
	東海・近畿	0.046	0.033	-0.032	0.188	0.174	-0.226	-0.354
学部ダミー (基準：人文科学)	社会科学	0.357	0.352 †	0.337	0.190	0.278	0.550 †	0.522
	理・工・農	-0.024	-0.033	-0.032	0.023	0.138	-0.056	-0.088
	その他	-0.137	-0.121	-0.131	0.026	0.112	-0.147	-0.202
難関校ダミー (基準：非難関校)		0.243 †	0.242 †	0.247 †				
インターンシップ熱心度 (熱心=1)			0.316 *	0.367 *	0.358 †	0.384	0.322	0.456 †
アルバイト熱心度 (熱心=1)			-0.036	-0.179	-0.479 *	-0.515 *	0.463 *	0.174
大学生生活熱心度	勉強 (授業)			0.029		-0.102		0.123
	勉強 (授業以外)			-0.367 *		-0.537 *		-0.212
	部活動、サークル活動			0.100		0.078		0.150
	ボランティア			-0.257		-0.420		-0.221
	留学2段階			-0.309		-0.311		-0.345
	海外旅行			0.527 **		0.648 *		0.430
	国内旅行			0.112		-0.349		0.556 *
	資格取得			0.013		0.532 *		-0.540 *
	読書			0.052		0.180		-0.009
	芸術活動			-0.101		-0.046		-0.200
	友人関係			0.358 *		0.190		0.590 *
定数		-1.038 **	-1.091 **	-1.169 **	-0.609 †	-0.536	-1.419	-1.626 **
n		946	946	946	461	461	485	485
Cox と Snell R <sup>2</sup> 乗		0.032	0.037	0.064	0.038	0.081	0.057	0.113
Nagelkerke R <sup>2</sup> 乗		0.044	0.050	0.087	0.052	0.110	0.078	0.156

(注) \*\*: p<0.01, \*: p<0.05, †: p<0.1

## ②重回帰分析の結果 (従属変数：就活自己評価点数)

表6 就職成果とインターンシップ、アルバイトや大学生活との関連②  
(OLS)

独立変数		従属変数		就活自己評価点数				
				(全学生)		(難関校のみ)		(非難関校のみ)
性別ダミー (基準：男)		0.000	0.011	0.009	-0.042	-0.057	0.062	0.051
所在地ダミー (基準：地方圏)	南関東	0.024	0.024	0.024	-0.029	-0.038	0.057	0.070
	東海・近畿	-0.079 *	-0.076 *	-0.078 *	-0.056	-0.073	-0.102 †	-0.098 †
学部ダミー (基準：人文科学)	社会科学	0.065	0.056	0.061	0.031	0.015	0.077	0.084
	理・工・農	0.100 *	0.095 *	0.101 *	0.046	0.026	0.137 *	0.165 **
	その他	0.102 *	0.103 *	0.088 *	0.059	0.038	0.148 *	0.135 *
難関校ダミー (基準：非難関校)		0.093 **	0.097 **	0.087 **				
インターンシップ熱心度(熱心=1)			0.090 **	0.051	0.059	0.038	0.123 **	0.058
アルバイト熱心度(熱心=1)			0.074 *	0.029	0.019	-0.007	0.137 **	0.064
大学生生活熱心度	勉強(授業)			0.094 **		0.102 *		0.084 †
	勉強(授業以外)			0.063 †		0.113 *		-0.001
	部活動、サークル活動			0.103 **		0.179 **		0.029
	ボランティア			0.007		-0.032		0.064
	留学2段階			-0.023		-0.064		0.023
	海外旅行			0.043		-0.001		0.081
	国内旅行			0.055		0.018		0.070
	資格取得			0.032		-0.022		0.096 *
	読書			-0.006		-0.016		-0.001
	芸術活動			-0.036		-0.036		-0.043
	友人関係			0.068 *		0.111 *		0.043
	n		946	946	946	461	461	485
調整済み R2 乗		0.016	0.029	0.087	0.006	0.075	0.059	0.087

(注) \*\*: p<0.01, \*: p<0.05, †: p<0.1

## 6. 結果の要約と考察

### ①要約

①インターンシップやアルバイトは就職の成果に対して効果はあるか

→おおむねインターンシップやアルバイトに熱心な学生の方が就職評価指標が高く、効果があったといえる。

②その効果は、大学の選抜性（入学難易度）により異なるか

→おおむね難関校に比べて非難関校の方がその効果はより大きかった。

③その効果自体も、そもそも大学生生活に積極的な学生がインターンシップやアルバイトに参加しているからであり、インターンシップやアルバイトの効果は低いのではないか

→そもそも大学生生活に積極的な学生がインターンシップやアルバイトにも熱心であり、これらの要因をコントロールするとインターンシップやアルバイトの効果は軽減されてしまう

## 6. 結果の要約と考察

### ②考察

#### ①非難関校の方が効果が大い理由

- ・ 相対的に不利な非難関校の一部の学生はインターンシップやアルバイトを通じて情報の収集や能力向上に努めることから、経験をしていない学生との差が顕著になる。
- ・ 一方、難関校の学生はそもそも新卒労働市場においては相対的に有利な立場にあり、インターンシップやアルバイトの熱心度の差が顕著に発現しないのではないかと思われる。
- ・ 非難関校が就職をする企業の方が相対的に実践的能力が評価されるのではないか。

#### ②なぜ、大学生活の指標を入れると、インターンシップやアルバイトの効果は低いのではないか

- ・ 自己選抜が影響している可能性大実施

#### ③大学はどうすればよいか

- ・ インターンシップ等だけではなく、大学教育・生活の充実が結果として就職（活動）に結びつくという視点での教育や学生指導の実施



## 7. 今後の課題

- ①もう一方の当事者である企業側のアンケート調査の実施、さらなる分析  
：調査実施済→次年度の大会で発表予定
- ②インターンシップやアルバイト、さらには大学生活が就職（活動）に及ぼす影響のメカニズムの詳細な分析
- ③これらの分析結果を踏まえたキャリア教育、就職支援の再構築の検討

ご清聴ありがとうございました

※本研究は、JSPS科研費JP17K04671の助成を受けた成果の一部である。

# 参考文献

- Acemoglu, D. and J. Pischke (1998), “Why Do Firms Train? Theory and Evidence”, *Quarterly Journal of Economics*, vol. 113, pp. 79-119.
- 古田克利(2010)「インターンシップ経験が新入社員のキャリア適応力に及ぼす影響」『インターンシップ研究年報』13号、pp.1-7
- 服部泰弘 (2017) 「採用」中原淳編『人材開発研究大全』東京大学出版会
- 平尾智隆・梅崎修・田澤実(2018)「大学生のアルバイト経験と就職活動の結果」『キャリアデザイン研究』、第14号、pp.91-99
- 石山恒貴(2017)「大学生のアルバイト経験が職業能力とジェネリックスキルに与える影響」『人材育成研究』、第13巻、第1号、pp.21-42
- 木戸口正宏(2013)「学生とともに「働くこと」を学ぶ(教養科目「現代社会と教育」における試み)その1 -大学生のアルバイト経験に関する調査と大学教育・学生支援の課題」『釧路論集：北海道教育大学釧路分校研究報告』第45巻、pp.75-84
- 真鍋和博(2010)「インターンシップタイプにおける基礎力効果と就職活動への影響」『インターンシップ研究年報』13号、pp.9-17
- 見館好隆(2007)「顧客接点アルバイト経験が基礎力向上に与える影響について--日本マクドナルドに注目して」『Works review』第2巻、pp.8-21
- 佐藤博樹・堀有喜衣・堀田聡子(2008)『人材育成としてのインターンシップ』労働新聞社
- 佐藤一磨・梅崎修(2015)「インターンシップへの参加が就職活動結果におよぼす影響：Propensity Score Matching法によるSelf-Selection Biasの検証」『大学評価研究』14号、pp.89-100
- 関口倫紀(2010)「大学生のアルバイト経験とキャリア形成」『日本労働研究雑誌』、第52巻第9号、pp.67-85
- 杉山成(2007)「アルバイト経験はキャリア意識の形成にどのような影響を与えるのか」『小樽商科大学人文研究』、第113巻、pp.87-98
- 杉山成(2009)「アルバイト経験はキャリア意識の形成にどのような影響を与えるのか(2)：アルバイトの位置づけに関する検討」『小樽商科大学人文研究』、第117巻、pp.1-14
- Ryan, A. M. & Tippins, N, T (2004) Attracting and Selecting: What psychological research tells us. *Human Resource Management*. Vol. 43 No. 4, pp.305-318
- 渡辺裕子(2015)「学生におけるアルバイトの実態と位置づけ：駿河台大学学生生活基本調査から」『駿河台大学論叢』、第50号、pp.169-187